津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 7. 3　NO 21

震災からの復興～ひまわりの花

先日、市内の西部を車で運転していると色鮮やかにひまわりが咲いている素敵な光景が目に入ってきました。ご存じの通り、ひまわりの大輪は１つの花のように見えますが、黄色い花びらに見える1枚１枚が花、そして茶色の円形の１つ１つも花なのです。あれだけたくさんの種ができるのには多くの花が集まっているからなのです。私は、ひまわりは夏の太陽の光を浴びて元気に咲いているというイメージが強いですが種類によっては春に咲く種類もあります。私も昨年、卒業式にむけてチューリップとひまわりを育てていました。13年前の東北地方の人も大震災直前の卒業式前のこの時期、それぞれ夢や希望を膨らませていたのではないかと思います。今年は東日本大震災が発生して14年目となります。調べてみるとこの期間に震度6以上の大震災は31回も発生していることが分かりました。同時に被災地から離れていると自分自身の記憶も風化しまっていることに気づかされました。

さて、阪神大震災の直後、被災者のケアに当たっていたある医者は暖房のない病棟を心理的に温めるために黄色い花をスタッフにもって来させたという話を聞いたことがあります。東日本大震災の後、どこからか津波で運ばれてきたひまわりの種が塩害にもまけず立派な花をさかせ「どこんじょひまわり」と呼ばれ、被災された方々に、「たちあがる勇気」を与えたと話題になりました。そのひまわりの種が毎年、子孫を増やし、現在は13世。東北から全国に「励まし」「希望」となって広がっているそうです。 チューリップの花言葉は「思いやり」。能登半島地震をはじめ、31の震災で今なお復興を目指し、立ち上がろうとしている方々がいるということを忘れずにいたいと思います。

そして、私たち大人はど根性ひまわりのように、たくさんの種を作りながら、目の前の子の本当の思いを感じ、励ましや希望を送れる人間をめざしていきたいと思います。

校舎散歩より

毎日、教室をまわり、その様子を HP に掲載しています。子どもたちが一生懸命考えたり、友だちと相談したりしている姿を見るととても嬉しくなります。AI が想像をはるかに超える速さで進化し、7年以内に今ある職業の多くがなくなってしまうだろうと予測されています。学校で学習する知識は最低限必要ではありますが、授業において“何を学んだか”ということより“どのように学んだのか”が大切になっています。したがって授業ではこれまでのようにいつでも教師が質問して説明して…黒板をノートにうつす授業からの転換を求められています。自分で調べたり、そこから考えたことを、他者（友だち）と話し合ったりしながらさらに自分の考えを深めていく…そんな授業を南が丘小学校では目指して、職員は研修をし続けています。